

22. カンキツ有望品種「せとか」の果面障害の発生実態

1. 背景とねらい

2006年に現地のカンキツ「せとか」栽培園で、果実、新梢および新葉の表面に隆起した黒点症状が多発した（図1）。本症状が多発した果実は外観品位が著しく低下し、規格外品となる。このため、果面障害の発生実態を2007年に調査し、原因を明らかにする。

2. 成果の内容

- 1) 尾道市瀬戸田町の露地栽培園では、果実の初発時期は、7月24日～8月30日の間であった（データ省略）。
- 2) 果実における初発時期の気象条件は、8月中旬以降の最高気温が34℃以上の日が多く、降雨量も少ない状況であった（表1）。
- 3) 周辺における発生園は10園中6園で、ハウス栽培と網目5mmの多目的ネット被覆栽培では未発生であった（表2）。
- 4) 樹体の部位別の発生程度は、樹の上部と外部で高かった（データ省略）。
- 5) 症状発現部位からは特定の病原菌は分離されなかった（データ省略）。
- 6) 同一の降雨条件で、黒点病と本症状の被害枝を暴露接種すると、黒点病被害枝の暴露接種区では果実表面に涙斑症を伴う褐色黒点症状が形成されたが（図2）、本症状被害枝の暴露接種区では症状が再現されなかった。
- 7) 7月5日の時点で、新葉の表面に隆起した黒点症状がわずかに発生していた樹に銅水和剤を散布した結果、散布1か月後には発生葉率が増加した。無処理区でも発生が増加しており、コサイドDF1,000倍単用区とICボルドー66D80倍区では、顕著に発生が助長された（図3）。
- 8) 以上の結果から、「せとか」に発生した果面障害は、雨媒伝染性の病害に起因するものではないと判断された。3)、4) および7) の結果から、日射によって助長される生理障害の可能性が高いと考えられた。

3. 利用上の留意点

- 1) 網目5mmの多目的ネット被覆等の対策を夏季に実施することで、本症状の発生軽減を図る。
- 2) 夏季には、果実温の高い日中の農薬散布を避ける。

(果樹研究部)

4. 具体的データ

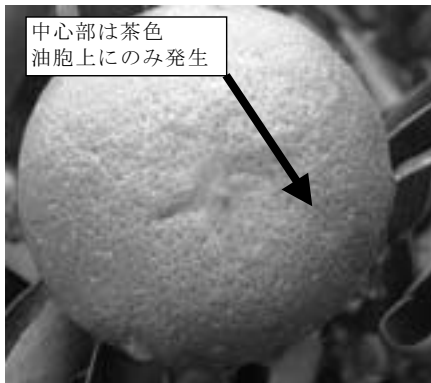


図1 せとか果面障害

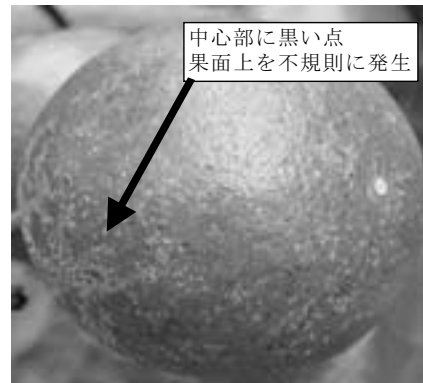


図2 黒点病の果実病斑

表1 7~8月のアメダスデータ

	7月			8月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
降水量 (mm)	162	116	7	3	0	36
日照時間 (h)	5	14	71	58	103	59
最高気温30℃ 以上の日数	0	1	7	9	10	7
最高気温34℃ 以上の日数	0	0	0	0	6	1
30℃以上 時間 (h)	0	1	29	44	88	52

注) アメダス地点は尾道市因島田熊町
(現地調査園より5~10km離れた地点)

表2 周辺栽培園での発生状況調査

調査園	作型	発生樹率 (%)	備考
A	露地	81	ハウス北側
	ハウス (天有り)	0	ビニールに寒冷紗 塗装実施
B	露地	100	
C	露地	99	
	ハウス (5月以降 天無し)	0	5mm多目的 ネット被覆
D	露地	100	20mm多目的 ネット被覆
E	ハウス (天有り)	0	
F	露地	0	5mm多目的 ネット被覆
G	露地	93	F圃場隣接 圃場
H	露地	38	谷間の穏地

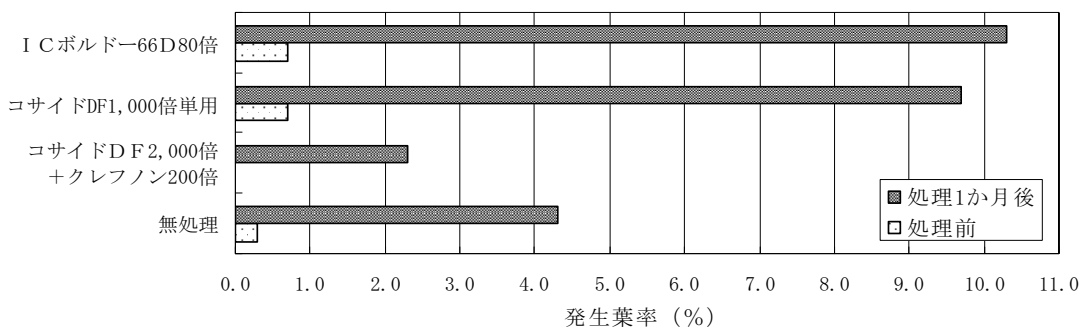


図3 薬剤散布が「せとか」の新葉における斑点の発生に及ぼす影響

注) 新葉：春期に出芽緑化した春葉。農薬は7月5日に散布し、その後8月5日にそうか症状を呈した葉（果面障害の症状と同様、詳細は図1を参照）を調査した。